

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年5月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173501149		
法人名	社会福祉法人泰生会		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	〒052-0012 伊達市松ケ枝町154-20 (電話) 0142-21-6400		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月26日	評価確定日	平成22年5月7日

## 【情報提供票より】 (平成22年3月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 1月 15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 13人, 非常勤 4人, 常勤換算 15人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	10,000~20,000円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200円	

### (4) 利用者の概要 (3月10日現在)

利用者人数	17名	男性 5名	女性 12名
要介護1	4名	要介護2	4名
要介護3	7名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 86.4歳	最低 77歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖ヶ丘病院、くもつ歯科、いぶり泌尿器科クリニック、藤原歯科
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、市郊外の自然豊かな広々とした敷地の中に立地しており、窓からの眺めも良い。隣接している同一法人のケアハウスとの交流も多い。周辺には老人保健施設、特別養護老人ホーム等があり、催し物で交流があり、協力体制も整っている。施設長や管理者は、職員とのコミュニケーションも良好で、利用者を第一に考えたケアに努めている。職員や利用者の笑顔や笑い声にあふれている、アットホームな雰囲気のある事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、評価の意義と活用、市町村との連携、家族への報告、チームで作る利用者本位の介護計画、現状に即した介護計画の見直し課題として挙げられたが、管理者と職員が一丸となって改善に取り組み、サービスの質の向上につながっている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組み、項目毎に検討を重ね話し合い、管理者がまとめている。外部評価についても、事業所の質の向上に活かすよう取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3~4ヶ月毎に開催し、自治会長、自治会民生委員、利用者家族、市役所職員、職員のメンバーで構成している。会議では、意見交換を重ね、具体的な事業所運営の質の向上及び地域交流の促進につなげている。議事録も保管し、いつでも閲覧できる。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員は、家族来訪時には、気軽に意見、苦情等が出出できるような声かけや雰囲気づくりに配慮している。玄関には苦情申込用紙と意見箱を設置し、重要事項説明書には相談窓口を明記している。事業所では、定期的に写真を掲載した「こもれび通信」を発行し、事業所の行事や利用者の様子を知らせている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常生活の中で近隣との交流は多く、地域の祭り見物をしたり、事業所の恒例行事である焼肉昼食会に近隣住民を招待するなど、良好な関係を構築している。ボランティアの来訪や実習生の受け入れもあり、地域との連携を深めている。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭に近い生活環境の中で『生活に満足できる』ことを保障する。」「その人らしい尊厳のある暮らしを保障する」を基本理念に掲げ、日々理念に基づいたサービスの実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りや職員会議、カンファレンスで、理念を確認し合い共有を図って、日々のケアサービスの実践に反映させている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入し、祭り見物に出かけたり、恒例行事の焼肉昼食会に近隣住民を招待している。地域住民から花や野菜をもらうこともある。また、夏場には、事業所の前のベンチに、近隣のお年寄りが休み、交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で項目毎に評価し、話し合いを重ねて管理者がまとめている。外部評価についてもその意義を理解し、出された課題は職員一丸となって具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3～4ヶ月毎に開催し、事業所の近況や行事の報告をしている。自己評価や外部評価の報告も行い、活発な意見交換をし、サービスの向上に反映させている。会議録もまとめ、家族が閲覧できるようになっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当者と行き来し、事業所の報告だけではなく、情報交換や案件について相談し、事業所のサービスの質の向上に活かしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員は、家族の来訪時には、利用者の様子や健康状態について詳細に報告している。金銭の管理についても定期的に報告している。また、利用者の写真を掲載した「こもれば通信」を発行し、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時には、気軽に話し合いができる雰囲気づくりを心がけており、不満や苦情が表出できるよう取り組んでいる。また、家族の意見を反映させて、事業所の壁には写真による職員の紹介コーナーを設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内のユニット間の合同行事を多く開催し、利用者と職員で顔馴染みの関係ができています。運営者は、職員の異動を最小限に抑える努力はしている。止むを得ない場合には、利用者へのダメージを防ぐよう配慮と工夫をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣市町村の事業所からなるグループホーム広域連絡会に加入し、年4回の研修会に参加している。道で行う研修会にも参加し、研修後は報告書をまとめ、他の職員に発表する機会を持ち周知している。また、ユニット間での勉強会を行い、法人内勉強会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣福祉施設の行事や催し物、グループホーム広域連絡会に参加して、同業者との交流を図り、サービスの質の向上に反映させている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、本人と家族の見学や話し合いを密にし、場合によっては家族と共に体験利用を行い雰囲気に慣れて、利用者が安心してサービスを利用できるよう配慮している。また、居宅支援専門員との調整も行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、一緒に喜怒哀楽を分かち合う暮らしの中で、利用者から昔のしきたりや料理の仕方を学んだり、互いに支え合ったりしている。また、利用者が職員を労ったり案じることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は、利用者との関わりの中で、表情や話の仕方、動作などを観察し、生活歴などからも、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、毎月のカンファレンスや管理者、職員、家族、介護支援専門員で行うサービス担当者会議の情報を基に、利用者本位に検討し、介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族の確認印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスを実施し、一人ひとりの状態を検討している。利用者に変化が生じた場合には、その都度、本人、家族、必要な関係者と話し合いを行い、新たな現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の友人が訪問したり、家族が宿泊するなど、その時々々の家族や利用者の要望に応じて柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所では、訪問診療、訪問看護も受けているが、利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診も支援し、利用者が適切な医療を受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族と医療連携機関同意書を交しており、利用者の健康状態を把握して、早い段階から家族と終末期における希望等を話し合い、その方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの生活歴、個性を把握し、その人に合わせてプライバシーや自尊心を損ねないよう声かけや対応に気を付けている。記録等の個人情報の取り扱いも適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースを大切に、体調や状況に配慮しながら、その人らしい暮らしを過ごせるよう、工夫して対応をするよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の能力に応じて野菜の下拵えや茶碗拭き、テーブル拭き、配膳を一緒に行っている。誕生日の祝膳やおせちなども職員と共に手づくりし、食事が楽しみなものになるよう工夫している。職員は、一緒に作業をした利用者には、感謝の言葉を伝えるように心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望や体調、タイミングに応じて、順番や時間帯を工夫しながら支援している。湯船の温度も好みに合わせ、入浴を好まない利用者にも週2回を目途に無理強いくることなく、工夫しながら支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の能力や好みに応じ、張り合いや喜びにつながることを引き出し、一緒に行っている。トランプ、百人一首、貼り絵、書道、歌など、利用者は生き生きと楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として、事業所周辺の散歩を行っている。ドライブや季節ごとの外出行事、いちご狩り、花見、ぶどう狩りなど、家族にも声をかけている。参加できない利用者には土産を持ち帰り、楽しみを共有している。個人レクリエーションの時間を設け、利用者は、1対1で職員と一緒に出かけることもある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関に鍵をかけるが、日中はかけていない。ドアが開くとセンサーが作動して音が鳴る仕組みで、職員が感知できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、定期的に昼夜を想定して避難訓練、消火訓練を行っている。職員は、救命救急講習も受けている。また、法人内の近隣施設との協力体制も整えている。	○	今後は、地域住民の参加協力、災害の種類に応じた訓練、災害時のための備蓄、救命救急講習の継続受講等考慮し、具体的な訓練の強化に取り組むことを期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い、記録に残して栄養バランスに注意している。刻み食やとろみ食など、利用者に応じて、食事形態の支援も行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である居間には、季節感のある飾り物や写真を飾り、家庭的な雰囲気づくりに努めている。利用者はゆったりくつろいだり、職員と共にゲームや歌に興じるなど、思い思いに自由に過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた家具や敷物、タンス、テレビを持ち込み、その人らしく居心地よく過ごせる居室となっている。		

※  は、重点項目。